



洋書輸入協会会報

Vol. 33 No. 2 (通巻381号) 1999年2月

新年懇親会

新生「日本洋書協会」丸の船出を言寿ぐ新年賀詞交換会が1月8日、東京・大手町のパレスホテルで開催された。開催時には出席予定者がほぼ全員揃い、再スタートに寄せる期待の大きさが窺われる出足であった。

開宴に先立ち、この新年会企画・運営の責任者である齊藤理事・文化厚生委員長（UPS）より大要次のような挨拶があった。

『僅かな希望の持てる予感のする年の初めに、我が協会が「日本洋書協会」として新たにスタートします。西欧その他の諸外国の文化遺産と人文・社会・科学技術などの先端情報媒体の扱いを社業として来た我が洋書業界の四辺では、昨今その業態と展開の仕組みに著しい変化が興っております。これらの変化に対応すべく、一昨年来協会規約、行動指針等の見直しを進めて参りましたが、昨年の臨時総会を経て諸改訂案の承認をいただき、本日を迎えた次第です。昨今の会員減少傾向に歯止めをかけ、むしろ増強することを新生協会の最重要活動と位置付けて本年スタートします。会員メリット云々の疑念を越えて、協会発展のために会員各位が夫々のお立場で何を成し得るかを改めてお考えいただきたいと思ひます。文化厚生委員会は、文化厚生の側面からこの疑念の一端に積極的に回答を差し上げるべく努力いたす所存であります。視線を高く、しかし重心は足元に置き、全員参加で様々な協会活動が進められ、これが協会発展の要因となることを願ってやみません。』

続いて鈴木理事長の年頭のご挨拶（会報1月号収載）と乾杯のご発声により賀詞交換会を開宴した。

遠路大阪からご出席の北尾書籍貿易(株)・坂下社長をはじめ、日頃お互いに顔を合わせる機会のない方々、久しぶりに参加された方々、それぞれに旧交を暖め、商売も含めてつもる話の花があちこちに咲いていたようである。なかばにはプレントイスホール出版(株)・小野社長、新田理事（雄松堂書店）、中林理事（日貿）などの一分間スピーチもあって宴は大いに盛り上がった。

最後に山川理事・ダイレクター委員（ユサコ）の次のようなご挨拶で閉会した。

『昨年の臨時総会で、協会は会員に何をしてくれるのか、と言うご批判がありました。会員が協会に何を望んでいるか、を的確に掴むマーケットリサーチが不足していたと感じました。理事会は独断を避け、会員と密接なコミュニケーションを図りながら、今後何をしなければならぬかを把握したうえで次に進まなければなりません。ご批判には一理ありますが、一方会員個々が協会のために何をするかという精神も大事だと思います。我々理事も一生懸命に努力しております。コミュニケーションを良くして魅力ある協会につなげて行きましょう。』

99年版 DIRECTORY のために大量かつ詳細なデータの提供を、当委員会よりお願いしました。これによりの会社が何をしているかが良く判ると期待しています。2000年には Agent List を WEB 上で見る事が出来る

目次

新年懇親会	1・2	海外ニュース・文化厚生委員会だより	3	早起きの得	6・7
理事会報告	3	うちの会社・委員会活動	4	広告	8
		出版文化史遺選	4		5

ようにしたいと考えております。これも協会活動のほんの一端に過ぎませんが、委員会一同精一杯頑張りますのでご支援ください。最後に申し添えますが、鈴木理事長は毎回理事会に出席されております。この熱意ある理事長を中心として、理事会は協会活動の先頭に立つ所存で

す。皆様のご指導とご協力をお願いいたします。』

参加者約160名と、昨年をやや下回ったものの活気あふれる集いであった。来年ニューフェイスが多数参加することを期待して散会となった。



理事会報告

1月28日(木)

1. 協会名称変更に伴いロゴを新たに制定する必要があるが、新英文略称JIPAを既に別の団体がインターネットのホームページに使用しているため、法律上問題を生じる恐れがあれば英文名又は略称の変更を検討する。
2. 新生協会の最重要課題である会員増強に当たり、運動展開の母体として「会員増強委員会(仮称)」を設置する。
3. 1999年度定時総会を5月14日(金)に開催し、新規約に基づく役員改選を行う。これに伴い、アカデミア・ミュージック(株)平岩社長を選挙管理委員長に指名した。
4. 名称変更に伴う事務手続(届・連絡)、印章・用箋類の作り直しの概要が事務局長より報告され、了承した。

5. 元会員・理事、第一出版貿易(株)社長佐々木大刀夫氏夫人逝去に当たり、事務局長名で弔意を表することとした。
6. 総務委員長及び事務局長の関西地区会員訪問の出張を承認した。
7. 東京国際ブックフェア99「洋書バーゲンセール」への参加募集を開始する。(事業委員会)
8. 三洋出版貿易(株)より98年12月末日退会の届が提出され、承認した。

定時総会のお知らせ

1999年度定時総会の開催を以下のように決定しましたのでお知らせします。今回は改正規約に基づく役員改選を、昨年に続いて実施します。

記

日時：1999年5月14日(金)

会場：パレスホテル(東京都千代田区)

アメリカ4大書店チェーンの売上総額は、1998年8月～10月の第三四半期で9.8%アップの13億5,000万ドルに上昇した。上昇の割合は最近減少傾向にあり、メジャー書店チェーンの売上鈍化を反映している。昨年第三四半期の売上は14.5%アップだったが、今年第二四半期のそれは10.7%に止まった。

売上鈍化の主な原因はBARNES & NOBLEの不振で、1998年第三四半期の同社売上上昇率は9.6%にすぎず、昨年同時期の15.4%に及ばない。同社は新規店舗開店にかかる費用を抑え、そのぶん**barnesandnoble.com**によるインターネット・ビジネスのほうに注力している。

他の要因として、CROWN BOOKSの倒産があげられる。第三四半期におけるCROWNの売上は40.5%ダウンして3,910万ドルだったが、これは店舗数の減少(昨年同時期の174から最近の79まで)と、類似店舗売上が9.5%ダウンしたことに起因する。CROWNによれば、マーケティング計画の欠如、新たな競合店舗の参入、倒産による逆宣伝など流動的な問題から商品供給が滞ったための売上減であるとのこと。

第三四半期で最も売上を伸ばしたのはBORDERS GROUPで、17%アップの5億5,830万ドルであった。同社の売上増大の要因は、24.5%も上昇したスーパー書店(イギリスも含めて25店のアウトレットを新規開店した)の売上と、3.6%アップした類似店舗売上である。

新店舗をオープンさせたBOOKS-A-MILLIONは、売上を10.3%上昇させた。この期間、同社の類似店舗売上のほうは3.3%のダウンとなっている。この四半期の終了と同時に、BOOKS-A-MILLIONは同社のインターネット書店サイト**Booksamillion.com**の設計を手がけたインターネット開発サービス会社NetCentralを買収する旨を発表した。

1998年2月～10月までの9ヶ月では、メジャー書店チェーンの総売上は11.2%増えて40億6,000万ドルにのぼった(昨年同時期に比べ15%の増大)。

PUBLISHERS WEEKLY/January 4, 1999

新春囲碁会(囲碁同好会)報告

新たな抱負をもって1月29日(金)午後5時半より開催された恒例の新春囲碁会に参加しました。会場は高田馬場駅から徒歩1～2分の高田馬場囲碁クラブ。以前のF1ビルから早稲田通りをわたり、真向かいになる菊月ビル3Fへ移転していましたが、元メンバーの柴山さんが経営に当たられていて、全く以前と変わらぬお馴染みの雰囲気で大賑わいの時間帯です。落ち着けるコーナーに「予約席」の札が席と基盤を確保してくれました。指導碁を打ってくださる石毛八段(元日本棋院理事で、実力もさることながら、豊富な経験から出てくるお話しが面白い、為になるだけでなく基本的にお話し好きな先生)は既に席につかれています。

石毛先生は、故石内東光堂社長とご懇意であったことから、30余年前に洋書輸入協会囲碁同好会の発足にお力添えくださり、現在に至っているとお話を初めて伺いました。その後、武宮九段、特本八段他の有名なプロ棋士も指導に当たってくださいました。大先輩方に感謝の気持ちを捧げたいと思います。楯さん(テクニコン)が、今トップ・レベルの棋士たちと若い時に力を競った話をしてくれましたが、そう言う時期に恵まれて強くなれたのだなあ、とわかりました。

「四隅取られて碁を打つな」と言うけれど、四隅取っても敗けるのです。中央へ向けて上へ伸びなければ駄目です、と先生。「3線より下の地と中央を比べると、前者が大きい」と言う算数的なことが頭の中で無意識に働くのか、そこは生きるのに楽だからか、つついってしまふのかもしれませんが。実際に3線に黒石、4線に白石と同数になるよう(4目程白が3線に入り黒を押し下げ)並べると黒地の合計が136目で、白地は大きく見えても15目黒地が大きいことが分かります。しかし、碁は交互に打たれる白石、黒石が素晴らしい造形美を醸して、それが勝敗を分ける知的ゲームです。そんな、こんな話が懇親会では政治談義に移り、マスコミの批判にまで発展した新春囲碁会でした。幹事の村山さん(ゲーテ書房社長)、ありがとうございました。次の会を楽しみに、報告を終わります。

(荒木亮一、医学書院MYW)

株式会社テクニコン・ドキュメンツ・サービス

百数十社に及ぶ洋書輸入業者に伍して生き残るべき道はあるのだろうか我々のような零細業者の宿命的命題である。科学技術分野の洋書洋雑誌の輸入販売を手掛けて15年（1969年当時）、多くの学術分野の研究者・技術者、ライブラリアンや、海外の出版社、取次業者や学・協会等との交流などの経験から導かれた小生の唯一の到達点は、“会議資料の収集（輸入）販売”でした。世界のどこかで日々開催されている、科学技術のあらゆる分野における国際会議、国別会議や学会会議などに、討議資料として研究者・技術者により提出される研究論文（ペーパー）集は、一部商業出版にて発行されているものの、殆どは会議参加者や所属学会員に配付するため主催団体によって発行される限定出版物であるため、最新の研究成果を収録する格好の資料であるにもかかわらず、需要者の要望を満たす業者が見当たらないとの、市場の声に答えるべく、会議資料専門の小社を設立してからはや30年になります。幸いいくつかの大口利用者にも恵まれ、なんとか初志

を曲げずに現在に至っており、本欄をお借りして深謝する次第です。

会議資料は商業出版物と違い、Books in Print や Publishers' Weekly のような文献情報誌に掲載されないため、Up-to-Date な会議資料の情報収集は、先ずその会議が何時何処で開かれ、主宰者は？ から発注先、入手方法など全て会議毎に調べ、殆ど業者割引もなく前払いが入手条件ですから、情報収集から仕入手続に要する手間と経費は一般書の比ではありませんが、業界唯一の専門家の自負と責任をもって今後も需要者のニーズにお答するつもりです。

さて、弊社では、最新の会議文献資料をいち早く、皆様にご覧いただけるようインターネットのホームページを開設しております。御注文お問い合わせ等は下記の電子メールかファックスをご利用ください。

ホームページアドレス <http://www.doctds.com>
E-mail: tate@gol.com Fax: 03-3267-7805

代表取締役 橋 研一

委員会活動

協会活動をより一層ご理解いただくために、「文化厚生委員会だより」に加えて、今月号から他の委員会の活動状況も適宜に報告することにしました。活動内容はもとより、記事などについてご批判、ご提言をお待ちしています。

<ダイレクター委員会>

山川委員長（ユサコ）、東條副委員長（南江堂）ほか委員4名

99年版冊子体の刊行（4月）及び2000年版以降の電子化推進準備を今期の目標として98年7月より活動を開始、99年版編集に関わる基本方針の策定、資料の収集などを経て、2月5日の第5回編集会議で99年版の原資料の点検・修正を終了し、現在出校待ちです。3月中に校了、4月下旬刊行の見通しです。2000年版以降の電子化を前提に99年版名簿の様式を変えると共に、会員各社の

デジタル情報への対応が進んでいることを受けて、当協会のウェブサイト開設の検討を平行して進めています。電子化に関する会員各社へのアンケート、名簿・Agent Listの項目再検討、データ収集・更新方法、オンライン検索方法等の検討、電子化に係わる予算措置等が次年度も含めての今後の活動課題です。

事務所を移転しました

会員名：(株)資料研究所

新住所：〒101-0021

東京都千代田区外神田3-5-20-405

TEL：(03)3258-9207（変更ありません）

FAX：(03)3258-9209（変更ありません）

移転日：1999年2月15日

明治初期の目録に見る洋書〔6〕

丸善・本の図書館 鈴木陽二

◆明治9年洋書リストにみる輸入の状況(6)

【モンテスキュー・ベンサム・トクヴィルの受容】

自由民権運動へのミルの影響が極めて大きかったことを述べたが、しかし、この運動を触発し、あるいは支えた欧米自由主義思想の摂取は、ミルに限らなかった。明治初期に広く読まれ日本の近代思想を醸成した思想家としては、ベンサム、トクヴィル、ルソー、モンテスキューなども見逃すことはできない。ミルがロンドンで学んでいた日本人に対して必読書として推薦したのは、正にこれらの学者であった(他にアダム・スミスや父のジェイムズ・ミルも含まれていた)ことを考えると、近代社会・近代国家の建設を急いでいた日本人が、人文社会科学の面で吸収しつつあった学問が、正鵠を得たものであったことが理解できる。

これらの思想家の著作で丸善の明治9年洋書リストに収載されているのは、モンテスキューの『法の精神』(Charles-Louis de Montesquieu “De l'esprit des Lois”)、トクヴィル『アメリカ民主主義』(英訳)(Alexis Charles Henri Maurice Clerel, de Tocqueville “Democracy in America” 2 vols.)、ベンサム『立法論』(Jeremy Bentham “Theory of Legislation”)で、さらにジェイムズ・ミルの著作2点も見られる。いずれも幕末から明治初期には知られていたものであるし、原書自体も早くから流入していた。

モンテスキュー『法の精神』は『葵文庫 江戸幕府旧蔵洋書目録』に「開成所」の旧蔵書として収録されているので、幕府「開成所」が存続した文久3年(1863)から慶応4年(1868)のあいだに収蔵されたものである。また、啓蒙思想家として大きな足跡を残した西周助(西周)の蔵書目録には、彼が幕府派遣のオランダ留学から慶応元年に帰国した際持ち帰った(推定)中にモンテスキューの全集がリストされている。西と同時にオランダへ留学した津田真一郎(真道)が慶応2年に上梓した訳書『泰西国法書』にも「法郎西学士 猛得斯咎(モンテスキュー)」としてルソーと共にその説を紹介している。また、徳川慶喜が慶応3年に大政奉還を決意した折、西周が諮問に答えた上申書の中でもモンテスキューの三権

分立について触れているということである。翻訳も早くから手がけられた。明治3年に『法の精神』が鈴木唯一の訳で『律令精義』と題して刊行され、また明治8年には洋学者何礼之により『万法精理』全18巻が英語から重訳された。これは、木戸孝允が外遊中に読んで感銘し、憲法制定の参考に翻訳を勧めたものであったという。

ベンサムは何時ごろから日本に入るようになったのか不明であるが、学説は幕末にはすでに知られていた。明治3年に創立された尺振八の私塾「共立学舎」の上級学級では『立法論』の原書が購読されていたというから、ミルと同様幕末から明治初年には移入されたと推定できる。欧米思想の摂取では、明治10年頃からダーウィン、スペンサーなど進化論思想が日本中に横溢するが、それ以前の啓蒙思想期あるいは文明開化期には、ベンサムの著作がミルやウェーランドの経済学書と共に大いに読まれて日本の自由主義思想の形成に強い影響を与えた。ベンサムは自由民権運動が蠢動する以前に広く流布し、やがてその運動の理論を構築する武器のひとつとなっていく。翻訳書も明治9年に何礼之訳『民法論綱』、明治10年に林董の『刑法論綱』全9冊と大島三四郎訳で『泰西刑罰原論』、明治11年には島田三郎訳の『立法論綱』など、立て続けに刊行されたことを見ても、ベンサムが熟読されていたことが理解できる。

明治6年に小幡篤次郎訳で『上木自由之論』という本が出版されたが、原作はフランスの政治思想家トクヴィルの『アメリカにおけるデモクラシー』の第11章を抄訳したもので、アメリカにおける出版の自由を論じた部分であった。このトクヴィルの初めての訳は自由民権運動の胎動期に位置していたことと共に、この年新聞紙条目が定められて、新聞の発行が許可制となり、国体誹謗、政治批判禁止が法令化されたことなど、出版の自由に対する規制が厳しくなった時期と重なったことを考えると、日本で初めて出版の自由を論じた本書の公刊は重要な意味を持つものであった。〔参考文献：麻生義輝『近代日本哲学史』/山下重一『英学史の旅』/吉野作造編『明治文化全集』第五巻/開国百年記念文化事業会編『明治文化史』第四巻〕

早起きの得

島岡 丘

正月だけでなく、日の出を見るとすがすがしい気持ちになる。日の出を見ようとすると、朝早く起きなければならないが、その努力は十分報いられる。日の出の様子は、その時の雲のタイプ、雲のあつき、気圧、湿度など様々な要素に左右されるが、それだからこそ日の出の限らない美しさに多くの人々はひかれるのである。

空に厚い雲があると、朝日は見えない。しかし、かすかでも白っぽくなっていく雲から、翌朝はきつとよい日の出が見られるのではないかと期待感が膨らむ。もし運良く、朝の日光を受けて、近くの雲が黄金色に輝き、遠くの雲も紅に染まるとついその雄大な朝の歩みに見とれてしまう。太陽が雲や朝霧の上を悠々と昇り始めると、雲の隙間から太陽光線が幾筋にもなって現れ、水平線上に広がる大海原を突き刺すかの如くに力強くその存在を周囲に示す。

日の出の瞬間々々は、太陽の独壇場で、北風はその存在を自ら隠し吹き下ろしを止める。森羅万象は昇り行く朝日によって無限の力を与えられ、新しい1日の活力を得るのだ。

文章家でもない一個人の私が、敢えて日の出を描写しようとするのは、かつてアメリカの Benjamin Franklin が言ったとされ、今は諺にもなっている「早起きの得」を時折思い出すからだ。これは昔、高校の英語の教科書に載っていたので、今でも思い出す。

Early to bed and early to rise makes a man healthy, wealthy and wise.
wealthy、つまり、裕福になれるかどうかは確かではないが、たしかに、早起きすることで健康に、さらに聡明になるのかもしれない。朝は空気が新鮮であり、いい空気を吸うと、頭もよりよくまわるようになるような感じがする。

高齢者になると睡眠時間が少なくて済み、朝早く起きられるようになるそうである。寒いからといって布団から出ることをいやがらず、日の出を眺めるためにも早起きをすすめたい。

人間は生まれたときは、両親の関係で生まれる国も言葉も場所も、自分の意志通りではどうにもならない。「住めば都」という諺があるが、そこには一種の妥協と諦感が伴う。

しかし、太陽と空とは、住む地域に関係なく平等に与えられる。家柄、名誉、地位に全く関係なく、太陽は、日の出から日没まで燦々と降り注ぎ、多くの幸せをもたらしてくれる。「心に太陽をもて」という台詞を幾度となく耳にして私も育った。

偶然の要素もあるが、私は多くの人が知らない茨城キリスト教大学のキャンパスに来てもう4年ばかり過ぎた。「多くの人が知らない」と書いたのは、官界、民間、業界の多くの人達から、「茨城キリスト」ってどこにあるの？ といつも聞かれるからである。「日立市」ですよ、と言うとほぼ分かるようであるが、詳しいことを知りたい人に、いいところですよ、と言ってその良さをお伝えする。まず、キャンパスはJR常磐線大みか駅に隣接しており、太平洋の海が2kmしか離れておらず、キャンパスからも海が見えますとお伝えする。「スーパーひたち」という特急列車が数本停車するほか、「フレッシュひたち」というビジネス特急が1日20本近く止まるようになっていて、また、車の場合は、常磐高速道路の日立南のインターから5分ばかりのところで、東京まで2時間以内で行けることを話す。

一般に、最先端の情報は茨城県では水戸とか土浦などの中都市にあると考えがちだが、実際はそうではないことを遅蒔きながら知った。日立製作所の心臓部分である、日立研究所（日研）は茨城キリスト教大学のある大みかの小高い丘の上にあり、そこに勤める博士さんたちが大みかの駅近くにある小料理屋に立ち寄って、飲み食いを楽しみながら、そこのマスターにパソコンのことについていろいろと教えるらしい。私が初めて立ち寄った小料理屋も、見かけは赤提灯の居酒屋だが中に入ると、面白い光景に出会う。居酒屋らしいリラックスできる雰囲気を保ちながらも、料理の種類は全部パソコンで作上げたアラカルトのメニューが垂れ下がっている。

帰りに、PR用のカラフルな名刺などをいただいた。それには、小料理屋の名前を赤色で大きくし、緑と薄赤色で縞模様のパックに太い青い遠近感のある縞を走らせていた。これとは別に、インターネットにホームページも作ったそうで誰でもその居酒屋の情報を入手することができるそうだ。居酒屋の主の話だと上に述べたほかに、お兄さんがコンピュータ専門の会社に勤めているそうで、パソコンもその使い方もお兄さんのおかげもあるとのことだった。

世の中はこのようにいろいろとつながりがあるものだ。

ご本人は脱サラで今一生懸命に腕を磨いているそうで、私のために、その日に取れた大きな鰹を切ってくれ、頭の美味しいところを選んで、おいしい味噌汁を作ってくれた。

魚を取りにいく時間は朝が早い。午前5時にはもう船が出る。「日の出の時の空の様子は毎朝違いますよ、雲はほんとにすばらしい」と、語った。船から見る日の出もまた格別のものでありそうだ。その話を聞いて、ハワイ沖で trawling に加わったことを思い出した。船がどんだんワイキキ海岸から遠ざかり前後左右の揺れが大きくなるので、不安になり、船長に How far are we going out? と聞いたところ、船長は笑顔を浮かべながら、「Birds.」とだけ答えた。鳥が集まるところに魚がいる。そこまで行くという意味だ。居酒屋の主人にこの話をするとそれは鰹などが鯛の大群をめぐって下から追い上げるので、水面の方に逃げる。それを鳥が待ちかまえているのだそうだ。なるほど、とはじめて納得がいった。

お金を出せばほとんど何でも手に入る時代であるが、わずかかも知れない水揚げに多くの黙々と働く人達がいることも知っておきたい。また、その働きに報いが十分あることを望みたいと思う。会社を終えると家路に急ぐサラリーマンも少なくはないが、ホームレスで単身で勤務するサラリーマンは、こんな新しいアイデアが豊かなマスターのいる小料理屋で思いがけない発見をしたり、一日の疲れを癒すこともあるのだ。

また、大みか駅の近くに「お魚センター」があり、新鮮な生きのいい多くの種類の刺身やお寿司が食べられることも伝える。私の好みの場所はすぐ近くの久慈海岸である。朝早く起きてコンビニで買った弁当を久慈海岸のすばらしい日の出を見ながら、一人で食べたりしたこと多い。近くのホテルはこの日立海岸の絶景をいかして、大窓 (picture window) のある温泉のような風呂を朝7時前から旅の客に利用させている。風呂に浸かりながら日の出を見るのはとてもすがすがしい気持ちがする。

水平線上に太陽を見て楽しむ経験はロスでも得た。ロスでは共著者の友人宅でソファにゆったりと腰を下ろし、brown bag からサンドイッチを取り出し、ピクニック気分 Redondo ビーチのはるか沖の水平線に沈み行く真っ赤な太陽を大窓から眺めながら時間を忘れて歓談し合ったことを思い出す。

人間的なお付き合いも直接顔を合わせるだけでなく、

これからはインターネットのサポートが役立つであろう。インターネットで交流していると、これまでとは違う新しい意識が芽生えてくる。種々雑多な情報がテレビ、ラジオ、新聞などのメディアを通して一方的に与えられてきた20世紀のライフスタイルとは異なって、情報が双方向となり、一人一人がグローバルな地球市民として文化と文明の発展に直接参加し、喜びを共有し合える世の中となっていくことを体験しつつある。

大みか駅近くにある一軒の「喜楽」という小さな居酒屋から、ホームページを通して、世界に向けて情報を発信できるようになったのはこれまでは考えられなかったことである。これによって元気さを取り戻した人、取り戻す人は数知れないのではないだろうか。よい仲間を国の内外に持ち始め、率直に語り合える相談相手が現れるのを期待することもできる。見えない相手と論争 (flame) するという楽しみもある。

ホームページが誰でも開けることを可能にしたのはその背景に技術的なこと以外に大きな哲学というものがあったに違いない。それは分かち合いとボランティアの精神であると思う。利益追求の競争社会から協調社会への着実な歩みである。

その歩みを確かなものにするには、世界通用語としての英語を駆使できるようにしなければならない。英語を外国語と考えるのではなく、広範囲に情報を伝達する手段としての英語を誰でも身につけられるようにしなければならない。母語は誰でも身につけているのであるから、それを英語として通じるように部分的に変えて活用するのがもっと早い。

小学生が自分の英語は通じるのだという自信を持たせるためにも、例えば、This is a pen. は「ディス イズ ア ペン」ではなく、英語にもう一歩近づけた、リズム表記、音調表記、島岡式カナ表記、つなぎの表記を使って以下のように示して学習効果を高めたいものだ。

○ — — ◎

This is a pen.

「ィィス ヱィズ ヱ ア ヰヰン」

「目から覚える」イメージを活用すれば、教室の音声指導の時間は半減し、効果は倍以上になる。mouth/mouse、light/right、hard/heard、cloud/crowd などの区別はカナ文字でも区別できるのである。

(茨城キリスト教大学教授)

◆新着在庫◆全面改訂第5版／全3巻

現代アメリカ文学評論集
Modern American Literature
5th edition

Editors: Joanne Cerrito & Laurie DiMauro

本書は米国Frederic Ungar社のUngar Library of Literary Criticism叢書の1冊として1960年に初版が刊行され、20世紀のアメリカ作家についての重要な批評を抄録した最も基本的な参考文献として永年にわたり定評を得てきました。

今回の全面改訂第5版は、旧版（第4版、1969年刊）とその後の補遺（3巻）をひとつにまとめると共に内容を改め、更にその後の新作家についても70名を追加しました。全体としては、Walter AbishからLouis Zukofskyまでの490名の作家について、約5,000点の批評の抜粋が収録されています。近年の関心を反映して、幅広いジャンルを対象として、ネイティブ、アフリカ系やエスニック系の作家も視野に入れています。また、旧版では独立したセクションとして収録されていた作品の書誌が、内容の改訂と同時に作家ごとの掲載へと変更され、大変利用しやすくなりました。最終巻には批評家索引も設けられています。

全3巻 1393頁 1999年1月入荷 ISBN 1-55862-379-5 揃価81,900円

(St. James Press)

日本総代理店 ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社
〒101-0062東京都千代田区神田駿河台2-9 研究社ビル 電話 03)3291-4541(代表)

記載の価格は税別です。また為替相場の変動により変わる場合があります。ご注文の際にはISBNをお知らせ下さい。

1999年2月 通巻第381号 日本洋書協会 編集者 高橋 紘
☎103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所=藤本総合印刷株式会社